

# ガス化溶融施設のながれ

従来のごみ処理施設は、ごみをすぐに焼却しますが、この施設では、前処理としてじっくりとごみを加熱します。

これによってごみを熱により、燃料となる熱分解ガス(可燃ガス)とカーボン(炭)に分解します。

生成した熱分解ガスとカーボン、約1300度という高温で燃焼熔融し、溶けた灰はスラグとなって排出されます。

燃焼溶融して発生した排ガスからは、熱を回収して蒸気を発生させ、タービンによる発電も可能なものとなりました。

